

女布遺跡 第9・11次調査

調査場所 京都府舞鶴市女布
 調査期間 令和5年10月2日～令和6年2月22日
 令和6年9月18日～令和7年1月中旬予定
 調査面積 令和5年度 1,730 m²
 令和6年度 1,800 m²



写真3 土壙墓1出土中国製白磁

写真4 3地区包含層出土の山吹双鳥文鏡

3地区からも多数の柱穴が検出されています。明確な建物を復元できていませんが、柱穴の中には、当時の柱の一部が残されているものもあります。調査区の南部からは、包含層中から日本製の山吹双鳥文鏡1面が出土しています。鏡には穴が2か所開けられています。壁などに掛けて信仰の対象にしていたと考えられます。

まとめ

今回の調査でまとまった数の中世の建物を検出しました。平安時代末の女布地域の歴史は文献史料がないためはっきりわかりませんが、全国的に荘園開発が盛んになった時期で、今回の検出した遺跡は、女布地区の位置する谷部まで開発した人々が住んでいた村の可能性が考えられます。出土遺物に中国製陶磁器や信仰の対象と考えられる鏡が出土したことから、財力を持ち信仰に厚い人達であったことがうかがえます。

今回の調査は、不明であった平安時代末～鎌倉時代の実態の一端を明らかにした貴重な調査であると考えられます。

建物・土壙墓

近代
近世
江戸時代
安土桃山時代
戦国時代
中世
室町時代
南北朝時代
鎌倉時代
古代
平安時代
奈良時代
飛鳥時代
古墳時代
後期
中期
前期
弥生時代
後期
中期
前期
晩期
縄文時代
後期
中期
前期
早期
草創期
旧石器時代

始良丹沢火山灰

【トピック】 3万年前の火山灰発見

今回の女布遺跡の発掘調査では、鹿児島湾から約3万年前の始良カルデラの噴火によって飛来した始良丹沢火山灰（AT）が発見されています。この火山灰は噴出量が多かったため、日本列島の広い地域で見つかっています。残念ながら今回は石器等は発見されませんでした。舞鶴にも旧石器時代の地層があることがわかりました。



はじめに

今回の発掘調査は、府営農業競争力強化農地整備事業に先立って行ったものです。女布遺跡は弥生時代から近世の集落遺跡で、北東方向に開く谷部の緩斜面上に立地しています。当センターでは、令和4年度から3回の調査を実施してきました。今回の説明会では特に成果のあった令和5年度9-2地区の調査と本年度の調査について取り上げます。

調査の成果

今回の発掘調査では、多数の柱穴や土壇墓、土坑、溝などを検出しました。遺構の多くは出土遺物から平安時代末～鎌倉時代（11世紀末から13世紀）だと考えられます。

①令和5年度調査（9-2地区）

掘立柱建物5棟、土壇墓1基、集石土坑1基等を検出しています。建物は重なり合いや、方向から3時期に分けられます。A群は建物1・5建、B群は建物2・4、C群は建物3からそれぞれ構成されます。

A群とC群については柱穴の切り合いから、

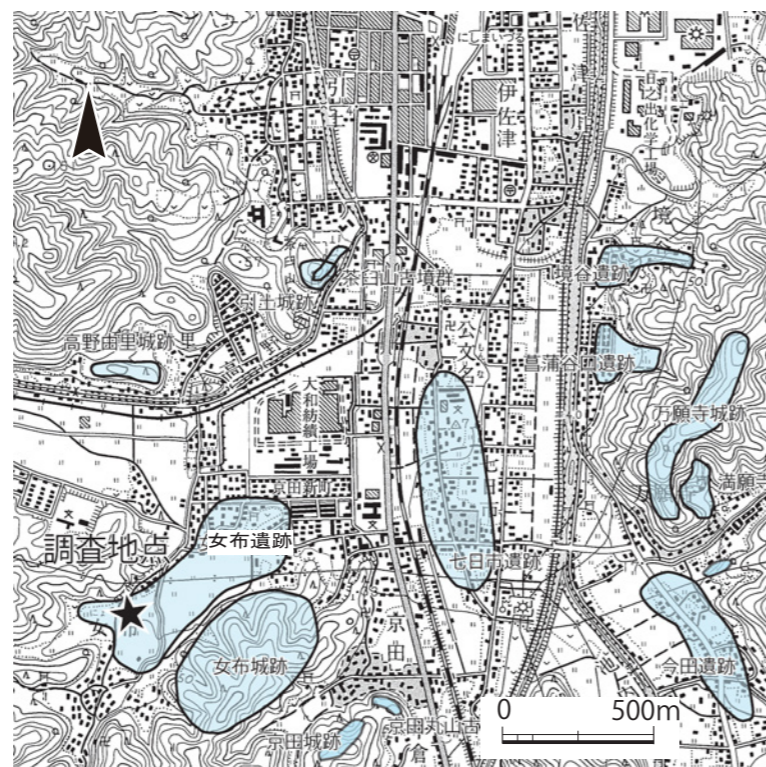


図1 調査地位置図及び周辺遺跡分布図
(国土地理院 舞鶴 1/25,000)

C群が古いことがわかります。建物3と建物4は北辺と西辺が重複し、建物2は建物3の北辺と軸をそろえていることから建替えられたものと考えられます。土壇墓や、集石土坑は建物2・4の空閑地を意識して配置されていることから同時期と想定できます。

土壇墓1は短辺が0.85m、長辺が2m以上で南東側が削平されています。土壇北西部から副葬品と考えられる中国製の白磁碗1個と白磁の皿4枚が重なって出土しています。

集石土坑1は長辺が1.8m、短辺1.5mの隅丸方形の土坑で、用途は不明ですが、中には割れた磁器が詰められていました。

②令和6年度調査

1地区からは、多数の柱穴を検出しました。調査区西部で隅丸方形の柱掘形を持つ掘立柱建物6を検出しています。南北2間以上、東西3間以上の規模を持ちますが、調査区外に延びるため規模は不明です。柱掘形の形状から古代にさかのぼる建物の可能性があります。遺物を伴わないため時期は不明です。

2地区からも多数の柱穴が検出されました。複数の時期の建物跡が重なっているようで、建物の復元については検討中です。



写真1 土壇墓1（東から）



写真2 集石土坑1（東から）



図2 当センター調査箇所（令和4年～6年度）

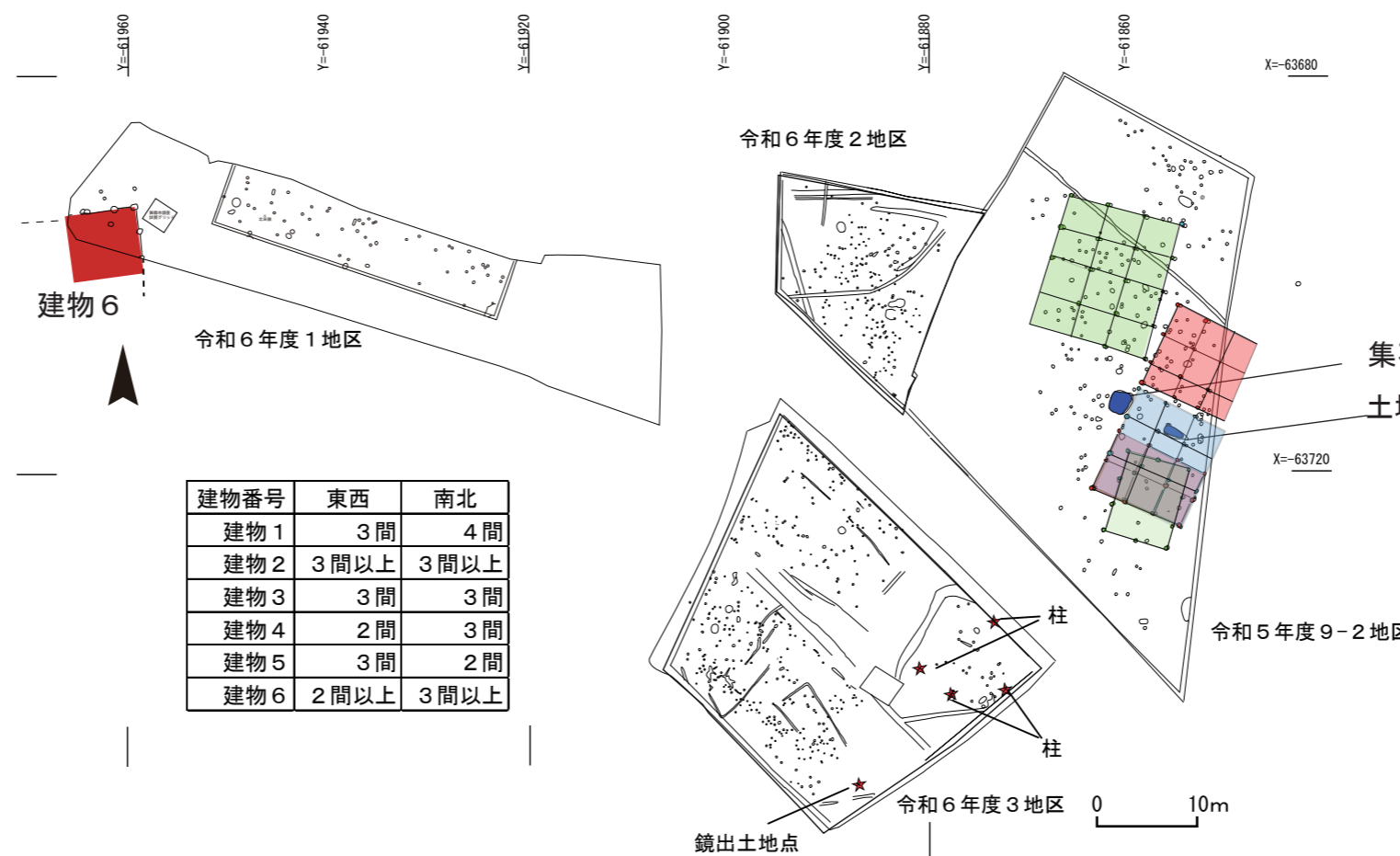


図3 遺構平面図

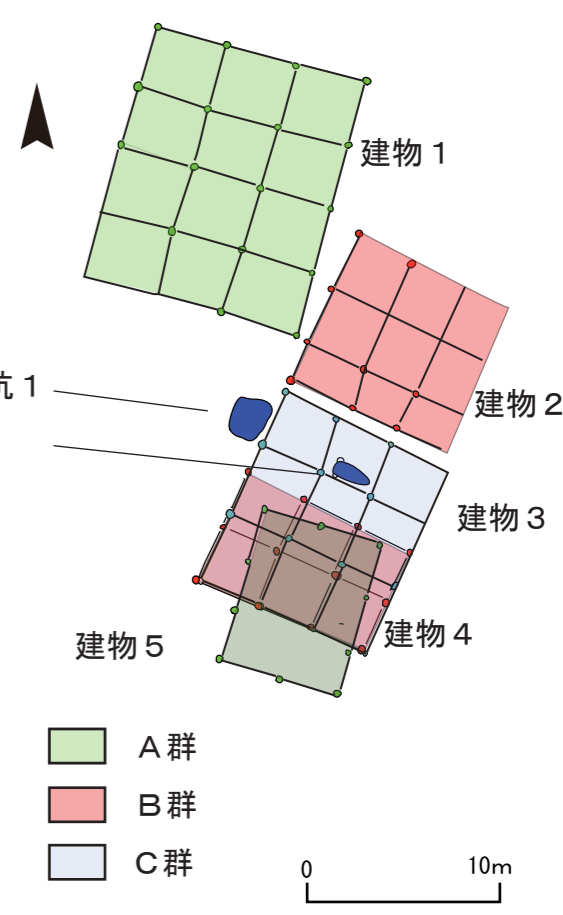


図4 建物復元拡大図